

研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「私たちはどのように自分の論文を発表すべきなのか？」

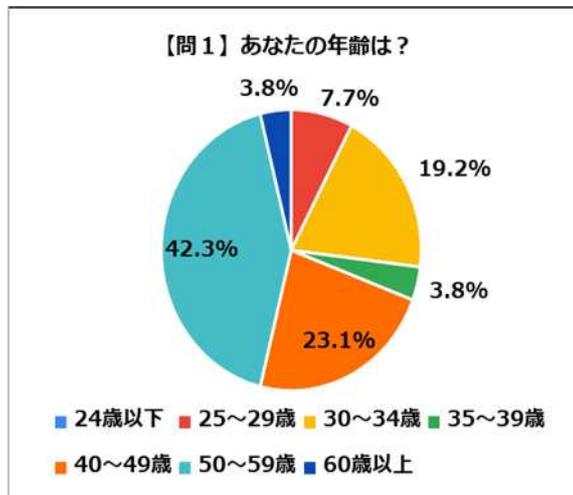
変化しつつある学術雑誌の動向を探る」参加者アンケート

日時：2021年12月3日（金）11：30～12：45（75分）

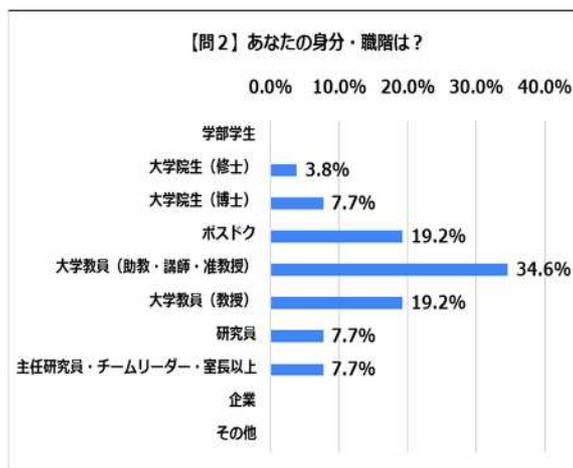
会場：第5会場（パシフィコ横浜 会議センター3階 304）・オンライン

回答者数：26名 ※参加者数：296名（現地参加119名・オンライン参加177名）

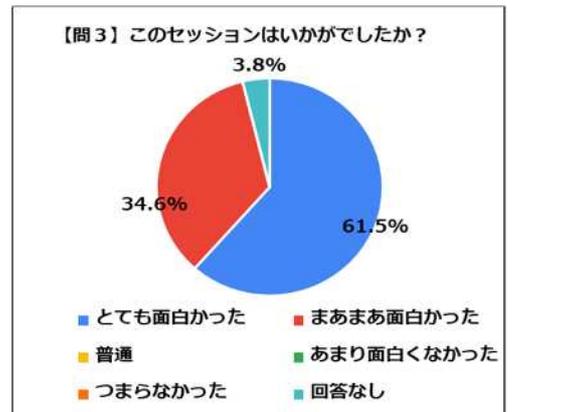
【問1】あなたの年齢は？		
24歳以下	0	0.0%
25～29歳	2	7.7%
30～34歳	5	19.2%
35～39歳	1	3.8%
40～49歳	6	23.1%
50～59歳	11	42.3%
60歳以上	1	3.8%
	26	100.0%



【問2】あなたの身分・職階は？		
学部学生	0	0.0%
大学院生（修士）	1	3.8%
大学院生（博士）	2	7.7%
ポスドク	5	19.2%
大学教員（助教・講師・准教授）	9	34.6%
大学教員（教授）	5	19.2%
研究員	2	7.7%
主任研究員・チームリーダー・室長以上	2	7.7%
企業	0	0.0%
その他	0	0.0%
	26	100.0%



【問3】このセッションはいかがでしたか？		
とても面白かった	16	61.5%
まあまあ面白かった	9	34.6%
普通	0	0.0%
あまり面白くなかった	0	0.0%
つまらなかった	0	0.0%
回答なし	1	3.8%
	26	100.0%



研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「私たちはどのように自分の論文を発表すべきなのか？」

変化しつつある学術雑誌の動向を探る」参加者アンケート

日時：2021年12月3日（金）11：30～12：45（75分）

会場：第5会場（パシフィコ横浜 会議センター3階 304）・オンライン

回答者数：26名 ※参加者数：296名（現地参加119名・オンライン参加177名）

【問4】各講演・パネルディスカッションの感想や、来年以降のセッションで取り上げて欲しいテーマなどのご意見があれば、ご入力ください（自由記述〔全角500字以内〕）。

- ・深刻さに改めて愕然とした
- ・非常に勉強になりました。来年もお願いします。
- ・毎年、研究公正の最新情報のご提供をお願いいたします。私、大学の研究公正に関する委員をやっておりまして、大変参考になります。ありがとうございます。
- ・今回のテーマは大変勉強になりました。
- ・これからの動きや、実際のペーパーミルの例を知れて参考になった。時間帯も参加しやすかった。
- ・査読者としての注意点
- ・情報系学会と共同するなどして、学会全体で不正論文阻止できるAIシステムなどの開発をしてほしい。
- ・年々高騰するジャーナルの購読費や投稿費は企業としても頭痛の種となっています。オープンアクセスの動きを知れてよかったです。

論文捏造どころか論文製造ということに驚きました。今後も、捏造やpaper millの推移を特集いただけると幸いです。

- ・paper millの実態を知り衝撃を受けた。パネルディスカッションが10分不足で残念だった。
- ・志向倫理というものが最近言われているようです。取り上げる価値があるかとも思いました
- ・どちらの内容も非常に興味深かった。査読システムの限界とプレプリントについても聞きたかったので次回以降のテーマとして機会があれば検討してください。
- ・パネルディスカッションが十分に機能するほどパネラーの意見を聞くことが出来なかったのは少し残念でした。時間的に厳しいのでパネラー通しのディスカッションは不可能なのだと理解しました。とても参考になるランチョンでした。

日本では、投稿料をサポートするシステムがない事についての指摘も、今後の課題として有用だと思いました。

- ・PaperMillのお話しは、今回、初めて知りました。学術論文を扱う学者、研究者の世界だけにとどめず、マスコミも含め、世界中への周知が必要ではないでしょうか。雑誌編集に携わる研究者、査読者のエネルギーはサイエンティフィックなものに向けるべきで、このような悪質な組織絡みの取り組みは、撤廃すべきだと思います。ネット犯罪を取り締まる法律が出来つつあるように、情報倫理に関する新しい法律、法整備などにも働きかけ、違反者には罰則を設けるなど、できないでしょうか？ またこのトピックスでのテーマを希望します。